

## 緑の担い手

### 林業との出会い —感動し、引き継が れるべきもの—

つくばね森林組合

永井敏雄

私は現在、石岡市(旧八郷町)にあるつくばね森林組合で森林作業員として林業に従事しております。組合長の山に対する熱意と組合に対する愛情に後押しされ、微力ながら組合に貢献すべく日々頑張っております。林業という世界に初めて出会ったのは、大学卒業後就職した環境アセスメント会社で、タカの生息調査のため入った山中において目にした地元森林組合作業班の方達による間伐作業でした。

さながら戦隊ヒーローの戦士のごとき鮮やかな仕事ぶりに私は感心しました。何より彼等が手入れたその山の何と美しいことか。辺りのうっ蒼とした暗い山の中にあつて、光に充ちたその山は異彩を放ち、その光景は、大きな感動として私の記憶に深く刻み込まれました。

その時出会った作業班長には、後の技術研修で大変お世話になることとなるのですが、あの林業との出会い、感動が私を林業という世界に導くことになりました。

今こうして執筆しながら、その班長から伺った話が思い出されます。それは、何がああ林業との出会いが

私に深い感動を与えたのか、という問に対する答えでもあると思います。「林業とは人を育てるようなもの、その場限りのものではなく、何十年、時には何百年も先の成長した山の姿を見据えたものでなくてはならない」その話を伺った時、私は班長の山に対する深い想い、愛情のようなものを感じました。そしてあの時私が見た光景は、その想いの表れであつたのだと気付かされました。そのような山への想いは、林業に従事する者にとつて必要なもの、引き継がれるべきものだと思います。

今回私は、後進を指導するという立場において緑の雇用研修を五年も受けさせて頂いております。ですが、まだまだ未熟で、「山への想い」を語るなどおこがましいのですが、その指導にあたり、技術面はもとより、引き継がれるべき「山への想い」を伝えることができるよう、また、自分自身も引き継ぐことができるよう励んでいきます。願わくば、今後の林業人生の中で、人を感動させることができるような仕事が出来ればと思っております。

